㉑ 排水工事

② 排水桝及びふた

鋳鉄製マンホールふた　(21. 2. 2)

種　類		適用荷重
・水封形	・密閉形（テーパー・パッキン式）	・T－2用
・簡易気密形（パッキン式）	・中ふた付密閉形	・T－6用
		・T－20用

グレーチングふた　[✓ ・図示]　(21. 2. 2)

材　質	形　式	種　類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
・鋼製	※受枠付き	・溝ふた用	・歩行用	※細目	※凹凸形
・ステンレス製	・	・桝ふた用	・T－　2用	※普通目	※平形
	ボルト固定	・かさ上げ用	・T－　6用		
	※無し	・U字溝用	・T－14用	※細目	・凹凸形
	・図示		・T－20用		

③ 埋戻し土

※B種　・建設汚泥から再生した処理土　(21. 2. 3)

㉒ 舗装工事

① 盛土に用いる材料

・A種　[✓ ・B種]　・C種　・D種　(22. 2. 3)（表3. 2. 1）

2 凍上抑制層の材料

※再生クラッシャーラン　・クラッシャーラン　切り込み砂利　(22. 2. 3)

3 路床安定処理

※添加材料による安定処理　(22. 2. 2)（22. 2. 3）（表22. 2. 2）

種　類　・普通ポルトランドセメント　・フライアッシュセメントB種

・高炉セメントB種　・生石灰（　　）　・消石灰（　　）

添加量　　kg／m3（目標CBR　※5　・　）

・ジオテキスタイルによる安定処理

ジオテキスタイルの品質

単位面積質量　60g／㎡以上　　厚さ（㎜）　0. 5～1. 0

引張り強さ　98N／5cm（10kgf／5cm）以上

透水計数　0. 15cm／sec以上

4 路床の試験

・支持力試験を行う（※乱した土　・　乱さない土　(22. 2. 5)

・路床締固め度の試験を行う

⑤ 路盤材料

※再生クラッシャーラン（RC－40）　(22. 3. 3)（表22. 3. 2）

・クラッシャーラン（C－40）又はクラッシャーラン鉄鋼スラグ（CS－40）

6 路盤の締固め度試験

※行う　(22. 3. 5)

⑦ アスファルト舗装

(22. 4. 2)（表22. 4. 1）

舗装の種類	車道部の基層	カラー舗装の種類
[✓ ※アスファルト舗装]	※無し　・有り	※顔料混入加熱アスファルト混合物
・カラー舗装	※無し　・有り	・

カラー舗装の着色骨材　・有色骨材（焼成）　・着色骨材（樹脂被覆）

アスファルト　※再生アスファルト　・ストレートアスファルト　(22. 4. 3)

加熱アスファルト混合物等の種類　(22. 4. 4)（表22. 4. 5）

区　分	・一般地域	※寒冷地域
表　層	※密粒度アスファルト混合物（13） ・粒度アスファルト混合物（13）	※密粒度アスファルト混合物（13F） ・細粒度ギャップアスファルト混合物（13F）
基　層	・粗粒度アスファルト混合物（20）	

シールコート　※行わない　・行う（施工範囲：　　）　(22. 4. 5)

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22. 4. 6)

⑧ コンクリート舗装

早強セメント　※使用しない　・使用する　(22. 5. 3)

注入材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ　(22. 5. 3)（表22. 5. 3）

溶接金網　※有り　・無し　(22. 5. 3)（22. 5. 4）

9 カラー舗装

(22. 6. 2)（表22. 6. 1）

	舗装の種類	部位	厚さ
※加熱系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物	・車道	・
・常温系	・樹脂系混合物　・塗布工法 ・ニート工法	・歩道	・

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22. 6. 6)

10 透水性アスファルト舗装

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22. 7. 6)

厚さ試験　※行わない　・行う

11 排水性アスファルト舗装

排水性舗装用アスファルト混合物　(22. 8. 3)（表22. 8. 2）

※ポリマー改質アスファルトⅡ種　・　ポリマー改質アスファルトⅠ種

アスファルト混合物の抽出試験　※行わない　・行う　(22. 8. 6)

12 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装　(22. 9. 2)（22. 9. 3）

種　類		寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材
※普通平板（N）	・カラー平板（C）	※300角	※60	※砂
・洗出平板（W）	・擬石平板（S）			・モルタル

・インターロッキングブ舗装　(22. 9. 2)（22. 9. 3）

種　類	曲げ強度	厚さ（mm）	表面加工及び色彩等
※普通タイプ ・誘導、注意喚起用タイプ	5. 0N／mm2以上	車道部　※80　・ 歩道部　※60　・	※標準タイプ ・表面化粧タイプ
・透水性タイプ	3. 0N／mm2以上		誘導、注意喚起用
・植生タイプ	4. 0N／mm2以上	※80　・　100	は黄色とする

・舗石舗装　(22. 9. 2)（22. 9. 3）

種　類	厚さ（mm）	施工方法	基　層
※小舗石（花崗岩）	※80～100	※うろこ張り	※コンクリート舗装
・	・	・	・アスファルト舗装

㉒ 舗装工事

⑬ 区画線

路面表示用塗料

規格番号	種　類	施工時の条件	適　用	寸法（㎜）	適　用
JIS K 5665	1種	常温	液状	幅　※150　・	※白 ・黄
	・2種	加熱			
	※3種1号	溶融	粉体状	厚さ　※1. 0	

揮発性有機溶剤の含有率は、塗料総質量に対して5%以下とする。

㉓ 植栽工事

1 土壌の酸度、水溶性塩類（EC）の試験

※行う　(23. 1. 3)

2 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類　(23. 2. 2)（23. 2. 3）（表23. 2. 1）（表23. 2. 2）

適　用	有効土層の厚さ（mm）	工　法	整備範囲
※行う　・行わない	※20　・	※B種　・	※植栽範囲　・図示

樹木　○・図示　(23. 2. 2)（23. 2. 3）（表23. 2. 1）（表23. 2. 2）

樹木の樹高（m）	有効土層の厚さ（cm）	工　法	整備範囲
・12以上	※100　・	※A種	※葉張りの範囲 ただし、低木は植栽範囲
・7以上～12未満	※80　・	・B種	
・3以上～7未満	※60　・	・C種	・図示
・3未満	※50　・	・D種	

工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

③ 植込み用土

※現場発生土の良質土　・客土（※畑土　・黒土）　(23. 2. 3)

④ 土壌改良材

※適用する　(23. 2. 3)（23. 2. 4）

施工箇所　※植栽範囲　・図示

⑤ 支柱材

※防腐処理杉丸太　・杉の焼き丸太　・竹　(23. 3. 2)

6 幹巻き用材料

※幹巻き用テープ　・わら及びこも　(23. 3. 2)

7 芝張り

種類　※こうらい芝　・野芝　(23. 4. 2)

8 枯補償及び枯損処理

期間　※引渡しの日から1年間　(23. 3. 4)（23. 3. 6）（23. 4. 7）（23. 5. 5）

・　年間　・　年　月　日迄

9 屋上緑化システム

土壌層　※改良土　・人工軽量土　(23. 5. 2)（23. 5. 3）

厚さ　mm

保水・排水層　・軽量骨材層（厚さ　mm）　・板状成形品　(23. 5. 3)

※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造体力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12年5月31日付け　建設省告示第1458号）による風圧力に対応した固定工法を標仕1. 2. 2［施工計画書］による品質計画で定める

㉔ 追加特記

① 室内空気有機化学物質低減対策

1) 建築材料等の選択

※ 建築材料はF☆☆☆☆を基準とするほか、ホルムアルデヒド以外の物質（別表Aの物質）の発散が極めて少ない材料を選定する。

なお、該当する材料等がない場合において、F☆☆☆又はその同等品（旧JAS及び旧JISにおけるFco、Eoのものを含む。）を使用する場合は、建築基準法の規定により使用面積制限計算書等を監督員に提出し、監督員の承諾を受けること。

※ 塗料及び接着剤はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンを含有しないか、トルエン等の含有量が極めて少ない規格品とする。

※ 防腐・防蟻剤はクロルピリオス、ダイヤジノン及びフェノルカブルを含有しない非有機リン系の薬剤とし、加圧式防腐、防蟻処理等は工場で行い、十分乾燥した後で現場に搬入したものを使用する。

※ 壁紙用接着剤は、フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を使用しているものを使用する。

※ 選定した使用材料については室別かつ部位別に使用材料台帳を作成する。

1）の使用面積材料制限計算書の代用を可とする。

2) 施工中の安全管理

※ 施工に先立ち、工法、材料等を確認し、指針値に関し意見等のある場合は申し出る。

※ 施工中も強い臭気等に注意する。

※ 接着剤及び塗料の塗布に当たっては、使用方法及び塗布量を十分に管理し、適切な乾燥時間をとるものとする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い室内に発散した化学物質等を室外に放出させること。の通風、換気を十分に行

※ 接着剤及び塗料の使用済み缶等は、速やかに場外に搬出させること。

3) 測定時期

※ 測定時期は、本工事のほか関連設備工事とも施工終了後とする。内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること、及び中央式空気調和設備のように換気を行いながら空気調和を行う設備がある場合は設備の試運転が終了していることとする。

※ 測定時期の決定は、測定結果が基準値・指針値を超えた場合に、8）の措置を講じる時間を見込むこと。

※ 大規模改造等改修工事の場合は、着手前に監督員の指定する一室について、4）の別表A、Bの物質測定を行うものとし、施工終了後も同様とする。

※ 改築等新営工事の場合は、完成後に監督員の指定する一室について、4）の別表A、Bの13物質測定を行うものとし、施工後も同様とする。

4) 測定対象物質　別表A

	測定対象物質　別表A	基準値ppm	μg／m3
※	ホルムアルデヒド	0. 08	100
※	トルエン	0. 07	260
※	キシレン	0. 20	870
※	パラジクロロベンゼン	0. 04	240
※	スチレン	0. 05	220
※	エチルベンゼン	0. 88	3800
	測定対象物質　別表B	基準値ppm	μg／m3
※	クロルピリポス	0. 000007	0. 1
※	フタル酸ジ－n－ブチル	0. 02	220
※	テトラデカン	0. 04	330
※	フタル酸ジ－2－エチルヘキシル	0. 0076	120
※	ダイアジノン	0. 00002	0. 29
※	フェノブカルブ	0. 0038	33
※	アセトアルデヒド	数値を確認する。	

5) 測定室

・ 改修工事の事前及び施工後（13物質）測定室数　室（監督員の指定した室）

・ 改築等新営工事の施工後（13物質）測定室数　室（監督員の指定した室）

※ 施工後（別表A6物質）測定室数（　）室（監督員の指定した室）

6) 測定方法

測定機器

※ 最新の『厚生労働省「室内空気測定のガイドライン」、学校にあっては文部科学省学校環境衛生基準』（以下「基準等」という。）に認められている測定機器

測定要領

※ 最新の基準等の測定方法

7) 測定結果の分析

※ 測定対象化学物質を採取した検体を分析機関に依頼する。

測定方法及び検体の種別ごとに、分析機関が異なることも認めるものとする。

8) 測定結果が指針値を超えた場合の措置

※ 測定結果が4）の基準値、指針値を超えている場合は、原因究明とともに換気通風又は低減物質の付与等の措置を講じ、再度測定を行い基準値以内であることの確認を、関連請負者が連携して行う。

9) 報告書の提出

※ 完了検査日までに報告書を提出する。

・ 部分使用の承諾をする場合は、使用日の前日までにする。

10) その他

※ 建築材料等の選択、測定方法等で下記によりがたい場合は監督員と協議を行う。

※ 関連の各請負者の役割分担は、別表Cによる。

別表C

発注工事種別	役割分担区分					改善措置
	空気調査	測定報告	材料選定	台帳作成	台帳まとめ	
・建築工事	○	○	○	○	○	○
・電気設備工事			○	○		○
・給排水衛生設備工事			○	○		○
・冷暖房換気設備工事			○	○		○
・　工事						
・　工事						

2 環境技術の適正化

※ 工事の施工に当たっては、地球環境保全のため、新潟市環境基本計画及び新潟市公共工事環境配慮指針などにより省エネルギー、資源等に関する技術の適用に努める。

3 ユニバーサルデザイン

※ 工事の施工に当たっては、「新潟市公共建築物ユニバーサルデザインガイドライン」の考え方に基づき施工に努める。

25 アスベスト含有建設資材に関する特記事項

1 アスベスト含有建材の処理

施工調査　［公共建築改修工事標準仕様書　9. 1. 1］

分析によるアスベスト含有の調査　・行う　・行わないサルデザインガイドラ

アスベスト粉じん濃度測定　・行う　・行わないサルデザインガイドラ

測定方法　※JIS K 3850 －1　空気中の繊維状粒子測定方法－第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。

測定機関　※厚生労働省新潟労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

2 アスベスト含有吹付け材の除去

除去工法　［9. 1. 3］

※「改修標仕」9. 1. 3による。

・

除去したアスベスト含有吹付け材の処理　［9. 1. 3］

※密封処理（二重袋梱包）

・セメント固化

3 アスベスト含有保温材等の除去

除去工法　［9. 1. 4］

※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。

・掻き落し・破砕・切断等による除去を行う。

※［9. 1. 3　アアスベスト含有吹付け材の除去］により、作業場を隔離する。

4 アスベスト含有成形板の除去

養生等　［9. 1. 5］

建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位（出入口、換気口、窓等）は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生シート等で塞ぐ。

アスベスト成形板の種類

材料名	使用部位	厚さ（mm）	備考

担当者：1級建築士　第264277号　近山　富貴

一級建築士事務所
株式会社　堤　建築設計事務所
〒951-8062　新潟市中央区西堀前通二番町715番地 TEL 025-222-6509 FAX 025-229-1702
E-mail：tutumi-a@pearl.ocn.ne.jp 管理建築士　1級建築士登録第125015号　野沢　道行

設計番号	1708	作成年月日	2017/03/31	工事名称	おもてなし広場ﾌｰﾄﾞｺｰﾄ等整備工事
管理技術者	野沢	主任技術者	近山	作成担当者	朝妻
図面名称	建築工事仕様書その4	区分	実施設計	縮尺	──
図面番号	D-06	意	構	外	
電	機				